

資料編

資料 1	やまがた緑環境税制度の評価・検証の経過	1
資料 2	山形県の森林・林業・木材産業の概要	2
資料 3	荒廃森林緊急整備事業のモニタリング調査	5
資料 4	やまがた緑環境税に関するアンケート結果	8
資料 5	県民参加の森づくり活動等参加者数一覧	26

資料1 やまがた緑環境税制度の評価・検証の経過

令和 2年 6月 1日	第1回やまがた緑環境税評価・検証委員会（書面開催） （評価・検証体制、スケジュールの協議）
令和 2年 9月14日	第1回やまがた緑環境税評価・検証プロジェクトチーム会議 （課題の整理及び検討の方向性について検討）
令和 2年 6月～12月	やまがた緑環境税の評価・検証に関するアンケート調査の実施 （県政アンケート、個人・法人アンケート、森林所有者アンケートなど）
令和 2年 7月～11月	意見聞き取り（市町村）
令和 2年10月14日	第2回やまがた緑環境税評価・検証委員会 （課題の整理及び検討の方向性について協議）
令和 3年 3月22日	第3回やまがた緑環境税評価・検証委員会 （やまがた緑環境税の評価・検証について（中間報告（案））協議）

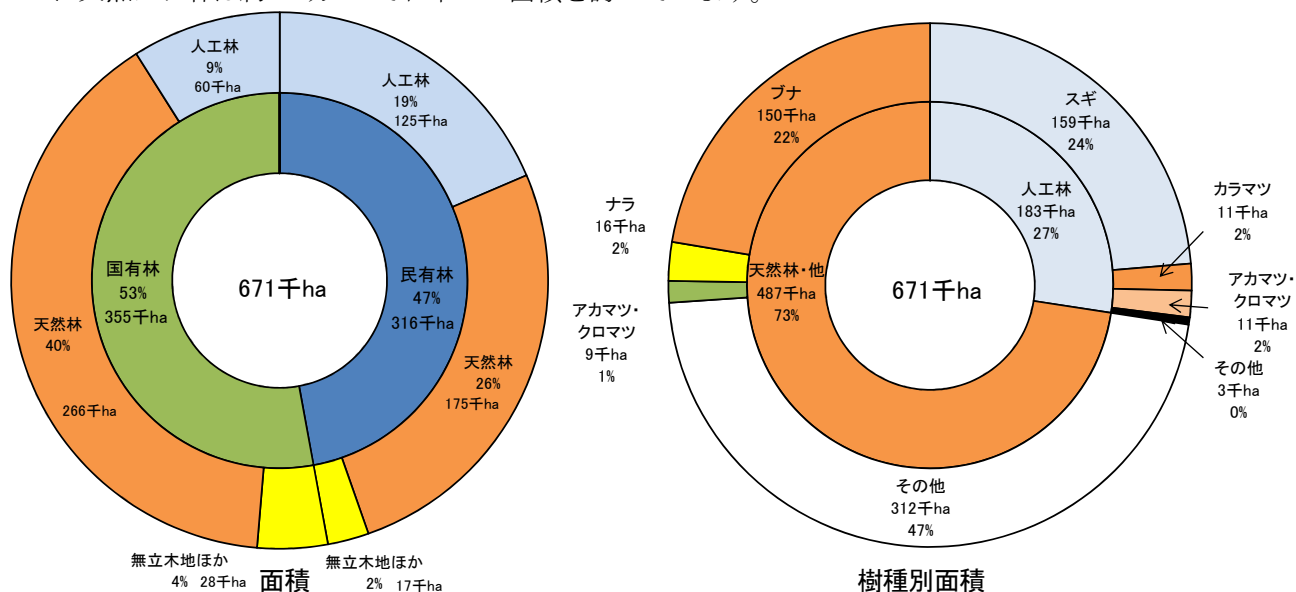
資料2 山形県の森林・林業・木材産業の概要

1 山形県の森林・林業・木材産業の概要

(1) 山形県の森林面積・蓄積

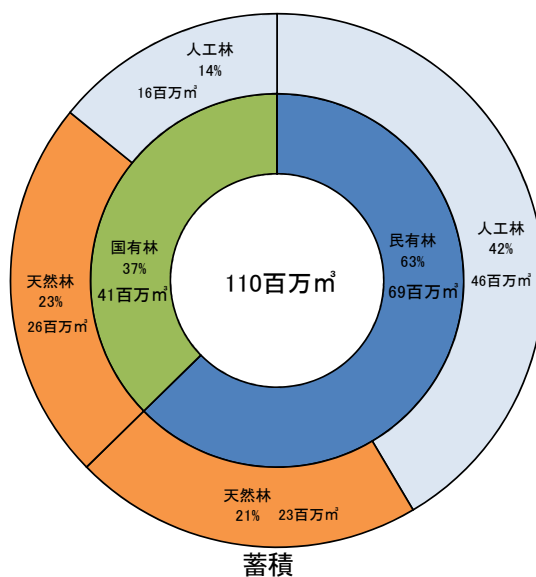
(面積)

- 山形県の林野面積は約67万ha(全国第8位)で、県土面積の7割を占めています。
- 全体の47%が民有林、53%が国有林となっています。
- 人工林と天然林の構成(面積比)は、天然林が73%と全国平均(41%)を上回っています。
- 森林の概ね3割ずつを「スギ人工林」、「里山のナラ林等」、「奥山のブナ林」が占めており、特に天然ブナ林は約15万haで日本一の面積を誇っています。



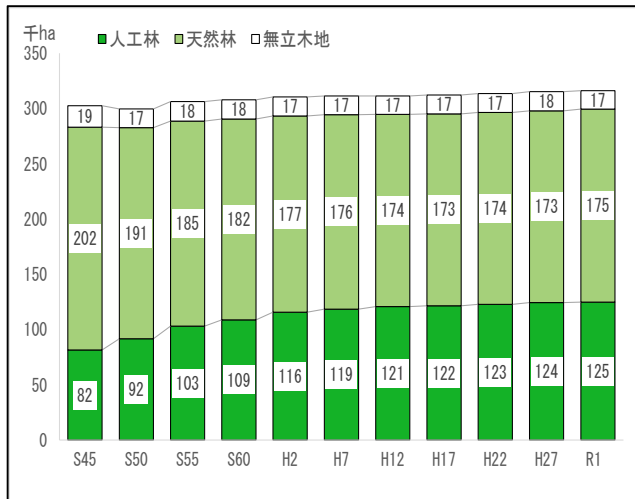
(蓄積)

- 民有林の蓄積は6,934万m³と全体の63%を占めています。
- 人工林・天然林別では、それぞれ同比率となっています。

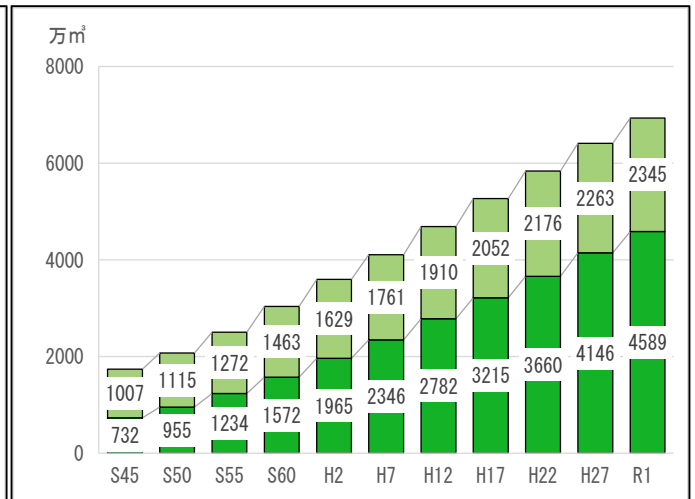


(2) 山形県の民有林の面積・蓄積の推移

- 現在の民有林の森林面積は、約 32 万 ha となっており、昭和 45 年からはほぼ一定で推移しています。天然林、人工林別の面積割合は、50 年前と比較すると、天然林面積が 17 万 ha で 12% 減、人工林面積が 12 万 ha で 12% 増となっています。
- 民有林の森林蓄積量は、年平均約 100 万 m³ ずつ増加しており、現在の蓄積総量は昭和 45 年からの 50 年間で 4 倍になっています。天然林、人工林別の蓄積は、50 年前と比較すると、天然林蓄積が 2,345 万 m³ で 2.3 倍、人工林蓄積が 4,589 万 m³ で 6.3 倍に増加しています。



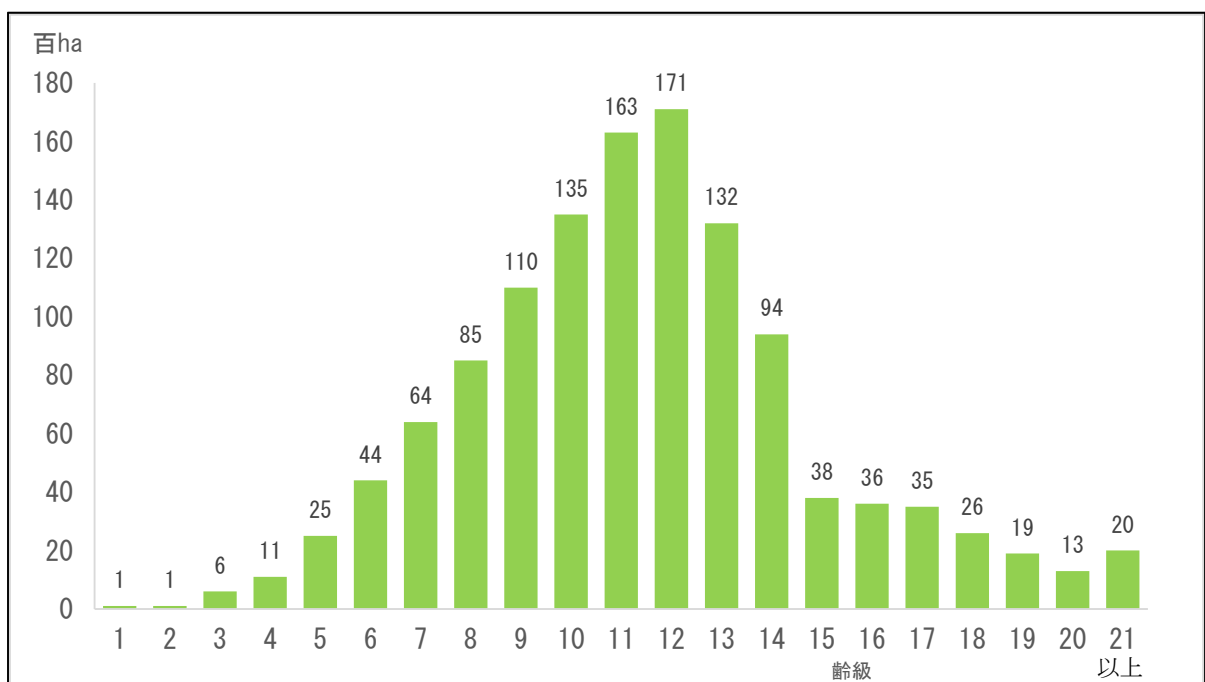
民有林資源推移 (面積)



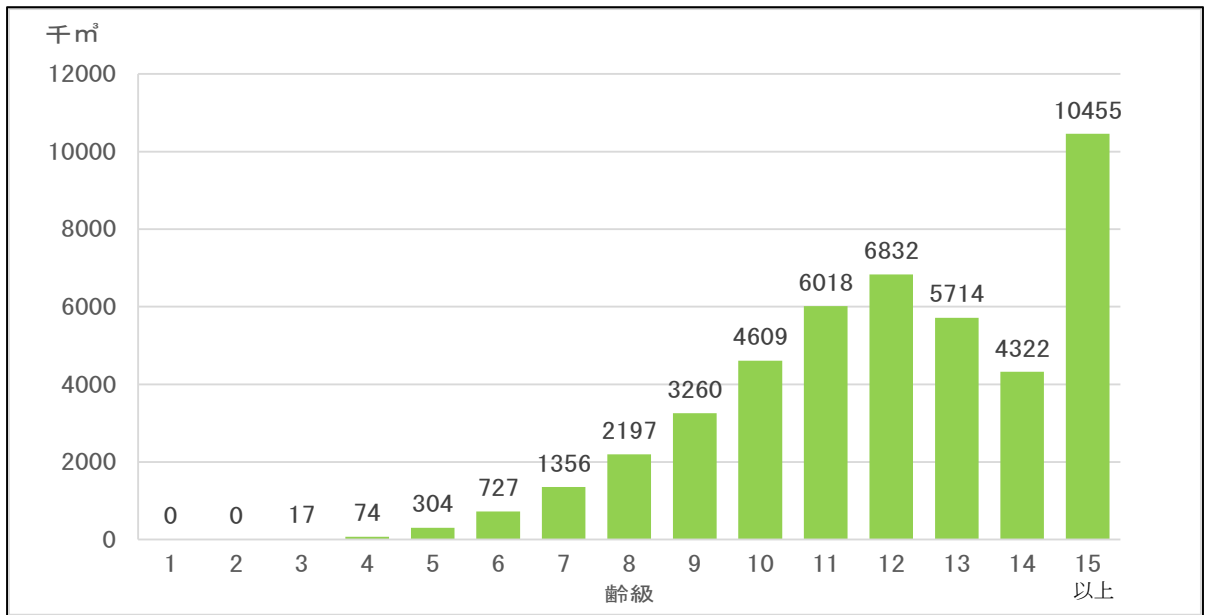
民有林資源推移 (蓄積)

(3) 山形県の齢級別の人工林資源

- 人工林面積の構成を 5 年きざみの齢級単位にみると、12 齢級 (56~60 年生) 前後の面積が最も多くなっています。また、間伐を必要とする 4 齢級~10 齢級 (16~50 年生) の面積は 4 万 7 千 ha で、人工林の 38% を占めています。
- 森林の蓄積は、13 齢級以上 (61 年生~) の標準伐期齢を超える森林の蓄積量は 2,049 万 m³ で、総蓄積量の 45% を占めています。



民有林人工林の齢級別面積

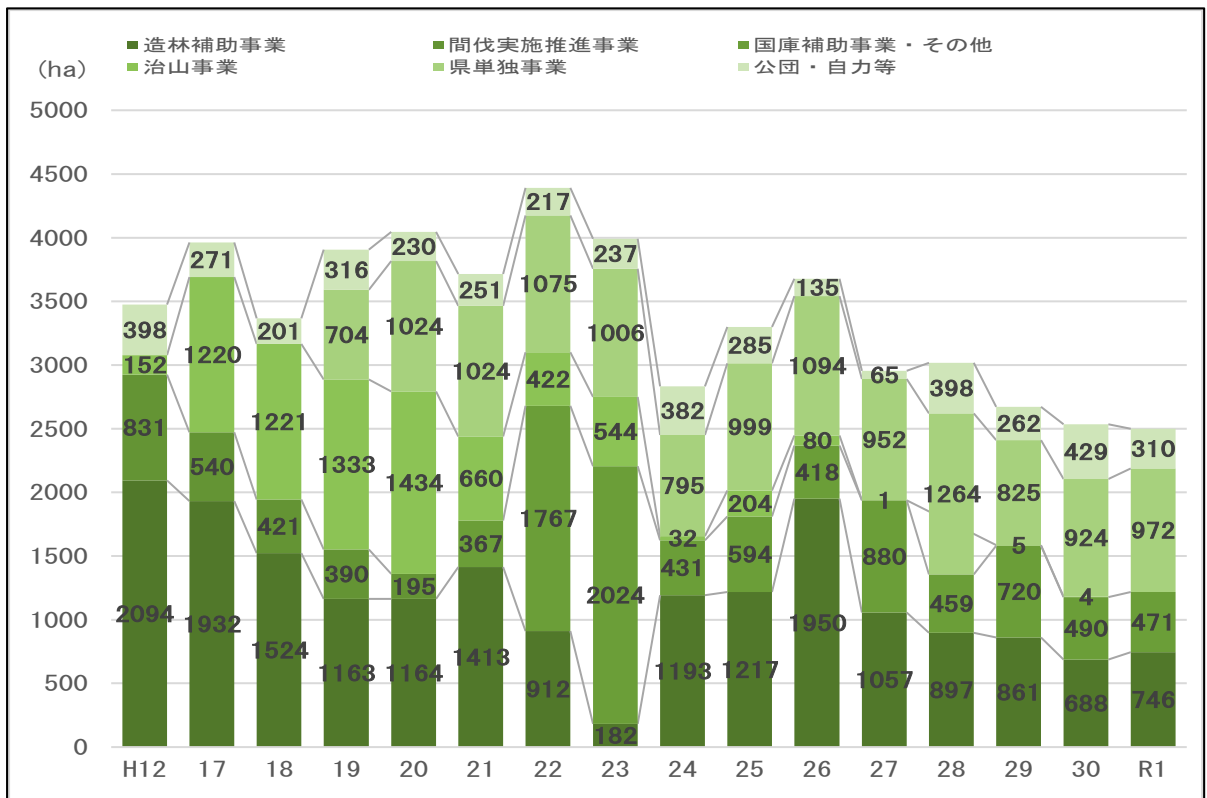


民有林人工林の年齢別蓄積

(4) 民有林間伐実施面積の推移

(民有林における間伐の実施状況)

- 平成 22～令和元年の 10 年間で約 31 千 ha（年平均：約 3,100ha）の間伐を実施し、間伐材利用量は約 700 千 m³（年平均：約 70 千 m³）となっています。



資料：「山形県林業統計」「山形県の森林・林業・木材産業の概要」

資料3 荒廃森林緊急整備事業のモニタリング調査

(目的)

荒廃森林緊急整備事業の効果を分析・検証するため、モニタリング調査を実施

1) 植生調査等

平成19～21年度の3年間に整備を行った森林と、対照区として整備を行わない森林との比較調査を、整備前及び整備後2年目から3年ごとに実施

モニタリング調査のスケジュール（数字は調査箇所数）

年度	19	20	21	22	23	...	30	元	2	3	...
荒廃森林整備森林調査 ○:設定・調査(整備前) ●:再調査(整備後)	○ 24		● 24				● 24			● 24	
		○ 24		● 23				● 24			
			○ 24		● 24				● 24		
対照森林調査 ○:設定・調査 ●:再調査	○ 41		● 13						● 8		
				● 14			● 9			● 9	
					● 16			● 9			

(調査の内容)

植生調査等（1箇所当たり）

- ① 毎木調査（大プロット20m×20m）
 - ・ 直径4cm以上の個体の樹種、樹高、直径を調査
 - ・ 4つの階層に区分し、階層毎の植被率を調査
- ② 低木類の調査（中プロット10m×10m×2）
 - ・ 直径4cm未満、樹高1.5m以上の個体の樹種、樹高、直径を調査
- ③ 稚樹調査（小プロット1m×1m×18）
 - ・ 樹高1.5m未満の木本の稚樹の樹種・樹高を調査
- ④ 土壌調査（1断面）
 - ・ 土壌pHの測定等

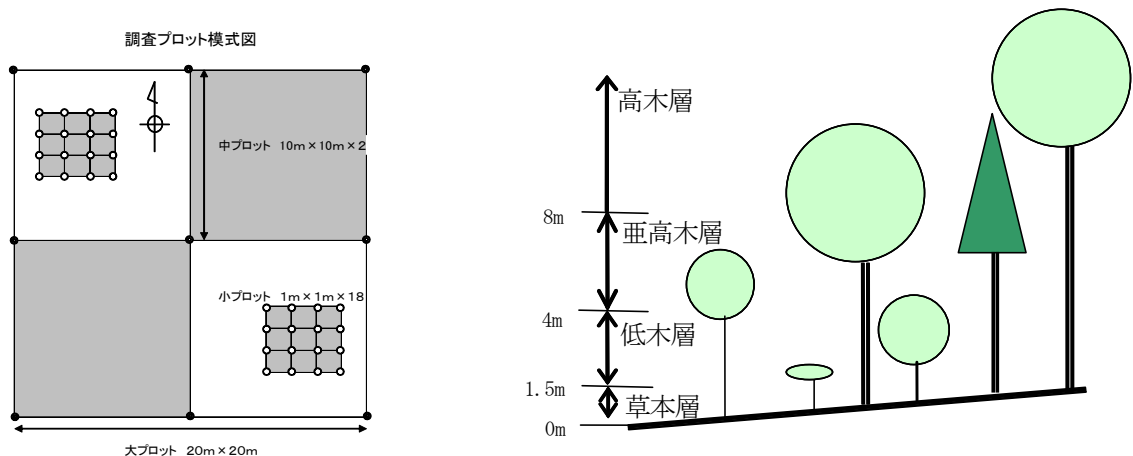


図 プロットの設定イメージと植生調査の階層区分

2) 土壤保全機能の試験評価

平成19～21年度の3年間に整備を行った森林と、対照区として整備を行わない森林の土砂流出量の比較調査を、平成28年度から毎年4箇所て表土流出防止機能の評価を実施。



図 土砂受け箱設置状況写真

(調査の内容)

調査区域内に幅25cm、高さ15cm、奥行き20cmの土砂受け箱を10基設置し、箱に溜まった土砂を乾燥後にリター（腐食土）、細土、礫に分類し、乾燥重量を測定し、土砂の流出量を測定

「森林環境緊急保全対策事業」における森林整備指針及び評価指標

1 針広混交林化施策


- (1) 目標林型：針葉樹と広葉樹が単木のまたはパッチを単位とするモザイク状態で混交し生育する森林
- (2) 施業対象林分：造林木の成長が不良な林分でかつ形状比が高く気象害等の諸被害の発生が危惧される林分、または地理的条件が極めて悪い林分

林型区分	例	想定される整備手法（作業種）	調査項目、評価指標等		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
タイプA-1 【スギ過密林分】 ・スギの形状比：概ね90以上 ・草本層、低木層の植被率：概ね10%以下 ・スギ林分＝閉鎖後		○スギの抜き切り（受光伐） ・抜き切り率：本数率で40%を標準とし、現地状況に応じて±10%の範囲で調整する ○伐採木の集積 ○枯れ枝落し（抜き切り木以外を対象とする） ◆伐採率を標準より高く設定する場合は、林分形状比を低く抑える選木を行う ◆次のような立地環境では気象害の発生を極力避けるため抜き切り率を上記以下に抑えることも検討 ・多雪地帯（100cm≦最深積雪深<250cm）及び豪雪地帯（250cm≦最深積雪深<400cm） ・少雪地帯（最深積雪深<100cm）でも過去に周辺の林分で冠雪害が発生している地域 ・風害の発生しやすい林分（林業技術ハンドブックP1081～P1082参照）	○調査項目 ・広葉樹、草本類の樹種（種類）、密度、樹高、直径、傾度 ・スギの樹高、直径、密度 ・高木性広葉樹の高木層の形成状況 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・下層植生（広葉樹含む）の侵入状況 【土壌の理化学的性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の侵入・生育状況 ・スギ形状比 【土壌の理化学的性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後20年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・混交林化の誘導状況	○当該林分の周辺に高木性樹種からなる広葉樹林が存在しない場合（種子の供給源がない）は、当面、先駆樹種、草本類の侵入を期待する ○急傾斜地においては伐採木の滑落等による被害や表土の流出を防ぐため林内に集積・安定（杭による固定含む）させる ○現存する高木性広葉樹は伐採しないよう留意する pH：土壌酸度 EC：電気伝導度
タイプA-2 【草本類侵入林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 ・高木性広葉樹の侵入ほとんどないか少ない =低木性広葉樹及び草本類が優占 ・スギ立木密度>収穫予想表該当本数 ・スギ林分＝閉鎖後					
タイプA-3 【高木性広葉樹侵入林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 ・高木性広葉樹は散在している *タイプA-2より出現率高い ・スギ立木密度><収穫予想表該当本数 ・スギ林分＝閉鎖後またはほぼ閉鎖					
タイプB 【気象害を受けた林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 ・高木性広葉樹の侵入ほとんどないか少ない =低木性広葉樹及び草本類が優占 ・スギ立木密度>収穫予想表該当本数 ・被害により閉鎖は破れている					○主な気象害 ・冠雪被害林分 ・潮風被害林分（庄内）

林型区分	例	想定される整備手法（作業種）	調査項目、評価指標等		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
タイプC 【スギ生育不良林分】 ・樹高 スギ>（高木性）広葉樹 *チマキザサ侵入している場合もあり ・スギ立木密度>>収穫予想表該当本数 ・スギ林分＝閉鎖前または不成績造林地	 	○スギの抜き切り（照度に影響を与えている場合） ○害木の除去（主にスギ） 【高木性広葉樹が高木性以外の広葉樹と競合しているかまたは被圧されている場合】 ○高木性広葉樹の刈り出し ・高木性広葉樹の周辺の高木性以外の広葉樹の刈払い ・ササ類の刈払い 【高木性広葉樹が他の広葉樹より優占しはじめている場合】 ○高木性広葉樹の本数調整伐	○調査項目 ・高木性広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、傾度 ・高木性広葉樹の高木層の形成状況 ・スギの樹高、直径、密度 【土壌環境】 ○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】 ○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査	○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 【土壌の理化学的性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・スギ形状比 ・階層別植被率 【土壌の理化学的性（pH、EC、塩基量等）】 ○整備後10年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・階層別植被率 ・混交林化の誘導状況	




2 長伐期択伐林誘導施策（一元管理）


- (1) 目標林型：長伐期択伐林施策が可能な形質を持つ立木を含む林分で冠雪害に対して安全な形状比を有するとともに林床には下層植生が生育している森林
- (2) 施策対象林分：立地環境においてはスギの生育に適しているものの保育施策が適期に行われなかったため林地荒廃が危惧される林分

林型区分	例	想定される整備方法（作業種）	評価指標		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
<p>【スギ過密林分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スギ立木密度>取獲予想表該当本数 		<p>○スギの間伐 間伐率：林冠を壊さないことを原則とし、山形県スギ林分収獲予想表における当該密度を目標とする ◆次のような立地環境では気象害の発生を極力避けるため抜き切り率を抑えることも検討する ・多雪地帯（100cm≦最深積雪深<250cm）及び豪雪地帯（250cm≦最深積雪深<400cm） ・少雪地帯（最深積雪深<100cm）でも過去に周辺の林分で冠雪害が発生している地域 ・風害の発生しやすい林分（林業技術ハンドブックP1081～P1082参照） ◆列状間伐を導入する場合、伐採列と残存列の設定にあたっては、以下留意する ・常風の方向や積雪等の気象条件 ・将来の搬出路としての利用</p> <p>○病虫害被害拡大防止施策 ・枯れ枝落とし（間伐木以外を対象とする） ・つるきり など</p>	<p>○調査項目 ・広葉樹、草本類の樹種（種類）、密度、樹高、直径、被度 ・スギの樹高、直径、密度 【土壌環境】</p> <p>○調査手法 ・標準地（定点）における調査 【テスターによる直接測定】 【土壌分析、サンプリング】</p> <p>○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査</p>	<p>○整備後3年程度～ ・下層植生（広葉樹含む）の侵入状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】</p> <p>○整備後5年程度～ ・スギ形状比 ・下層植生（広葉樹含む）の生育状況 【土壌の理化学性（pH、EC、塩基量等）】</p> <p>○整備後10年程度～ ・長伐期択伐林への誘導状況（間伐の実施状況または計画の有無等）</p>	

3 里山林整備

- (1) 目標林型：階層構造が発達し、高木層は高木性広葉樹や針葉樹（クロマツ等）が優占している林分かつ更新に必要な高木性広葉樹が存在する森林
- (2) 施策対象林分：病虫害等により荒廃が進み森林の機能が低下した林分や人為的な補助作業なしでは更新が危惧される林分

林型区分	例	想定される整備手法（作業種）	調査項目、評価指標等		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
<p>タイプA-1 【病虫害被害林分】 ・マツ材線虫病やナラ類集団枯損被害等により上層を形成していたアカマツやクロマツ、ナラ類などが枯損・枯死した林分 ・枯損木が立木のまま残っている</p>		<p>○枯損木（枯死木）の処理 伐倒・玉切り・集積など ○媒介する昆虫が羽化脱出する前の被害木が単的にある場合は薬剤処理による駆除も可（ただし枯損木処理の付随作業として実施） ○高木性広葉樹の刈出し 被圧している低木性樹木を中心に刈払い ○高木性広葉樹の植栽 （*自然力では回復できない区域でのみ実施） ・補助工として簡易柵工等の施工も可</p>	<p>○調査項目 ・広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・植栽木の樹高、直径、被度 ・高木性稚幼樹の樹種、密度</p> <p>○調査手法 ・標準地（定点）における調査</p> <p>○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査</p>	<p>○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・植栽木の生育状況</p> <p>○整備後10年程度～ ・高木性広葉樹の生育状況 ・植栽木の生育状況 ・階層別植被率</p> <p>○整備後20年程度～ ・階層別植被率 ・高木性広葉樹の稚幼樹の出現状況</p>	<p>○伐採した枯損木については二次被害が発生しないよう処理する</p>
<p>タイプA-2 【病虫害被害により高木層が消失した林分：海岸部】 ・マツ材線虫病により上層を形成していたクロマツが枯損・消失した林分 ・風背側には高木性広葉樹が生育している</p>		<p>○抵抗性クロマツ等の植栽 ・補助工として簡易柵工等の施工も可 ・風背側に高木性広葉樹が生育している場合は、ギャップ（人為的に形成するもの含む）に植栽してできるだけ風による植栽木への影響を弱める手法をとる</p>	<p>○調査項目 ・植栽木の樹高、直径、被度 ・消失の有無 ・植栽木以外の高木性広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・高木性稚幼樹の樹種、密度</p> <p>○調査手法 ・標準地（定点）における調査</p> <p>○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査</p>	<p>○整備後3年程度～ ・植栽木の生育状況 ・植栽木以外の高木性広葉樹の侵入状況</p> <p>○整備後5年程度～ ・植栽木の生育状況 ・植栽木以外の高木性広葉樹の侵入・生育状況</p> <p>○整備後10年程度～ ・植栽木を含めた高木性広葉樹の生育状況 ・階層別植被率</p>	
<p>タイプB 【海岸クロマツ林分】*庄内地域 ・ニセアカシアが侵入している林分 ・密度が高く被圧されているクロマツが散在する ・ツル類が巻きついている個体が多い</p>		<p>○ニセアカシアの伐採、薬剤処理 ○被圧されているクロマツの抜き切り ○伐倒木の処理（マツ材線虫病の予防のための林外搬出など） ○つる切り ○被害木の薬剤等による処理 ○クロマツ（抵抗性）の植栽</p>	<p>○調査項目 ・ニセアカシアの本数、樹高、被度 ・ニセアカシア以外の広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・クロマツの密度、樹高、直径</p> <p>○調査手法 ・標準地（定点）における調査</p> <p>○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査</p>	<p>○整備後3年程度～ ・ニセアカシアの侵入状況 ・ニセアカシア以外の広葉樹の侵入状況</p> <p>○整備後5年程度～ ・ニセアカシアの侵入状況 ・ニセアカシア以外の広葉樹の侵入・生育状況 ・クロマツの生育状況</p>	

林型区分	例	想定される整備方法（作業種）	評価指標		備考
			調査項目、調査方法	評価指標	
<p>タイプC 【上層過密林分】 ・林内には倒木や枯死木（株立ちの中の枯損した幹を含む）が発生している ・更新に必要な高木性広葉樹の稚幼樹が非常に少ない ・萌芽更新に必要な高木性広葉樹の萌芽が非常に少ない ・下層植生が非常に少なく林地崩壊や土砂流出が危惧される</p>		<p>○抜切り（受光伐） 伐倒・玉切り、集積など ○枯損木の処理 伐倒・玉切り、集積など ○高木性広葉樹の刈り出し 被圧している低木性樹種を中心に刈払い ○高木性広葉樹の植栽 （*自然力では回復できない区域でのみ実施） ・補助工として簡易柵工等の施工も可 ○つる切り</p>	<p>○調査項目 ・高木性広葉樹稚幼樹の樹種、密度、樹高、直径 ・広葉樹の樹種、密度、樹高、直径、被度 ・植栽木の樹高、直径、被度、消失の有無</p> <p>○調査手法 ・標準地（定点）における調査</p> <p>○調査時期 ・整備前 ・整備後2年目 ・以降2年おきの調査</p>	<p>○整備後3年程度～ ・高木性広葉樹の樹稚幼樹の出現・生育状況 ・高木性広葉樹（亜高木層・低木層）の生育状況 ・植栽木の生育状況</p> <p>○整備後5年程度～ ・高木性広葉樹の樹稚幼樹の出現・生育状況 ・高木性広葉樹（亜高木層・低木層）の生育状況 ・植栽木の生育状況 ・階層別植被率</p>	

資料4 やまがた緑環境税に関するアンケート結果

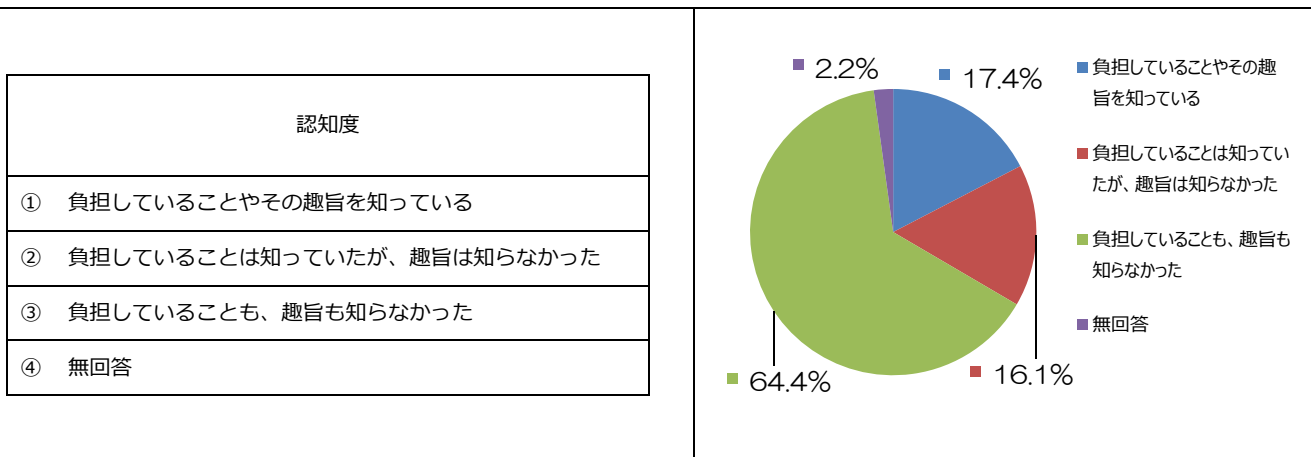
◆調査対象：県政アンケート

<調査の概要>

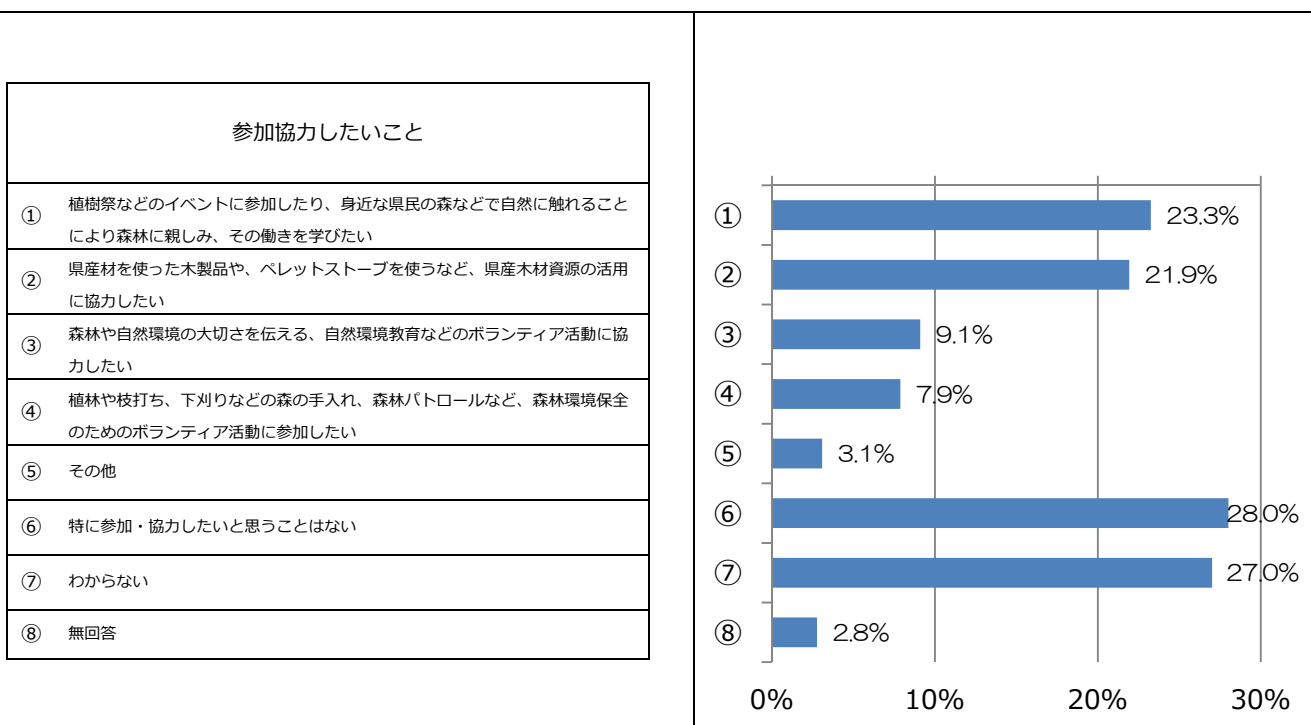
- 1 対象：県内在住の18歳以上の男女個人 2500人
- 2 期間：令和2年8月17日～9月4日
- 3 回答：1,534名

・郵送によるアンケート調査を実施

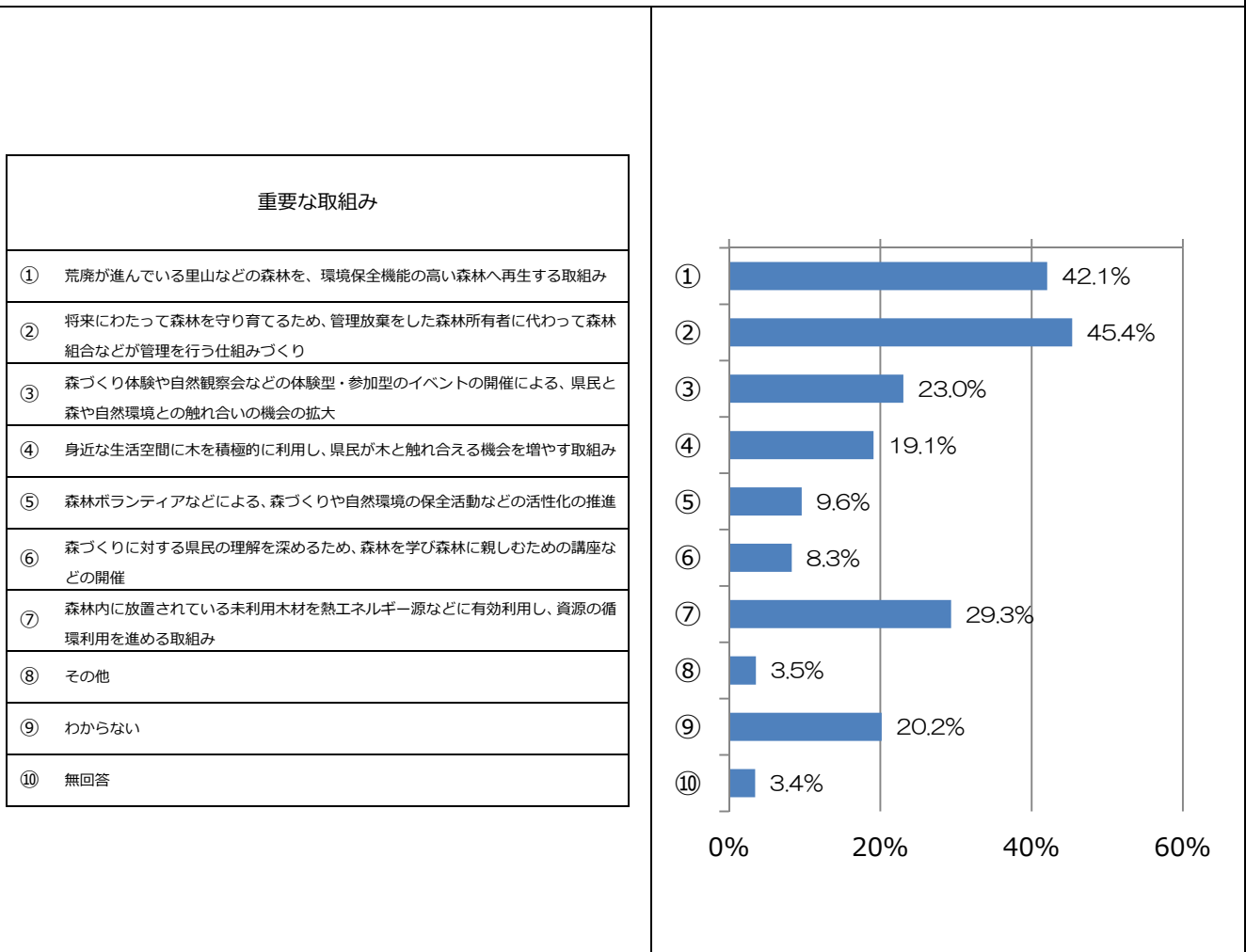
問1 平成19年4月にスタートした「やまがた緑環境税」は、令和2年度で14年目を迎えますが、あなたは「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていますか。(1つ選択)



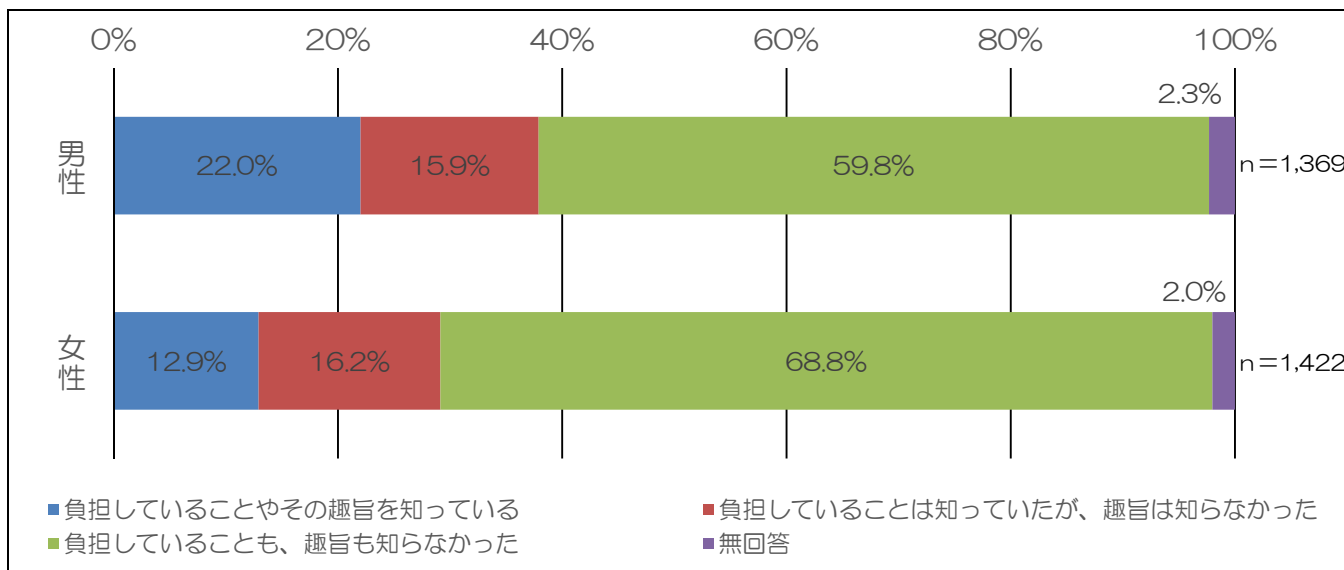
問2 県民みんなで支える森づくりのために、あなたは、どのようなことに参加・協力したいと思いますか。(3つまで選択)



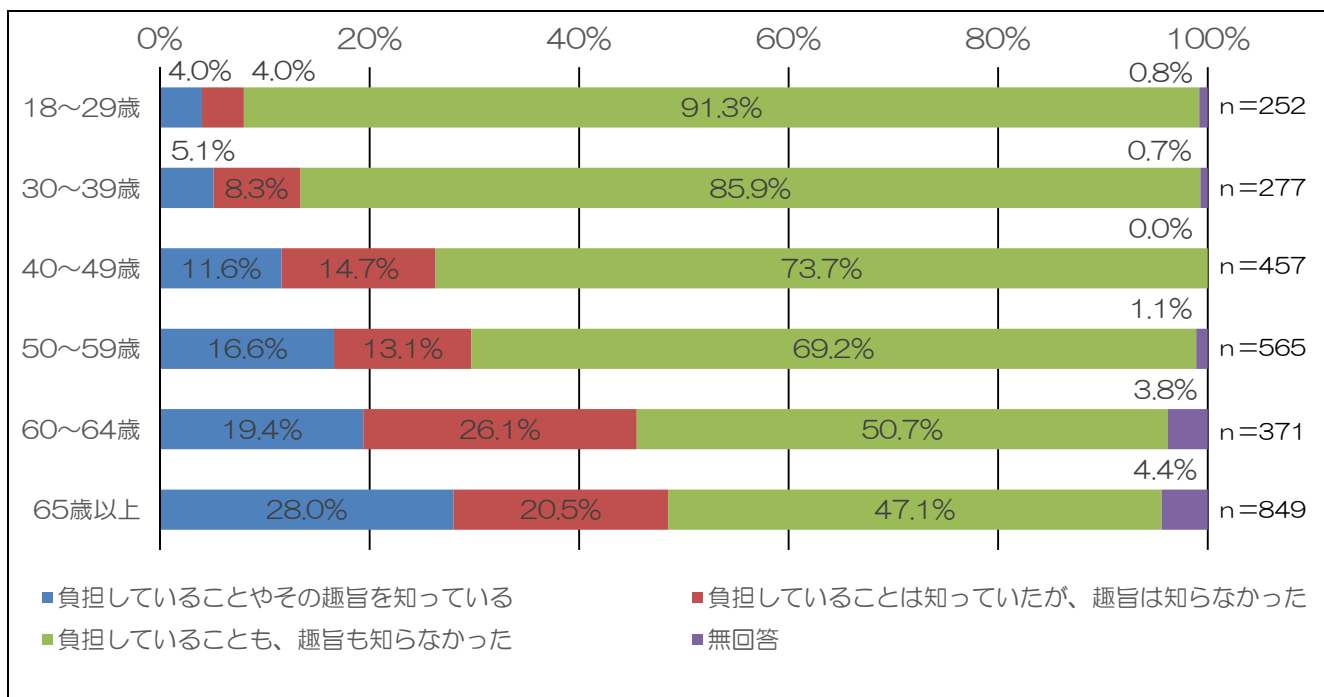
問3 やまがた緑環境税を活用した森づくりを進めるにあたって、あなたは、どのような取組みが重要だと思いますか。(3つまで選択)



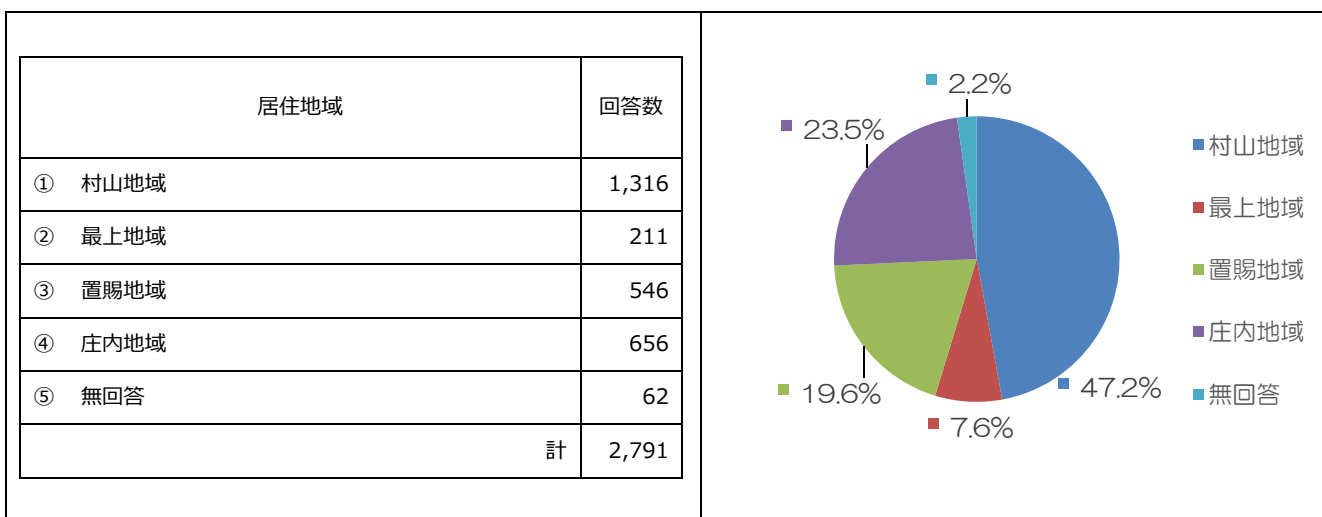
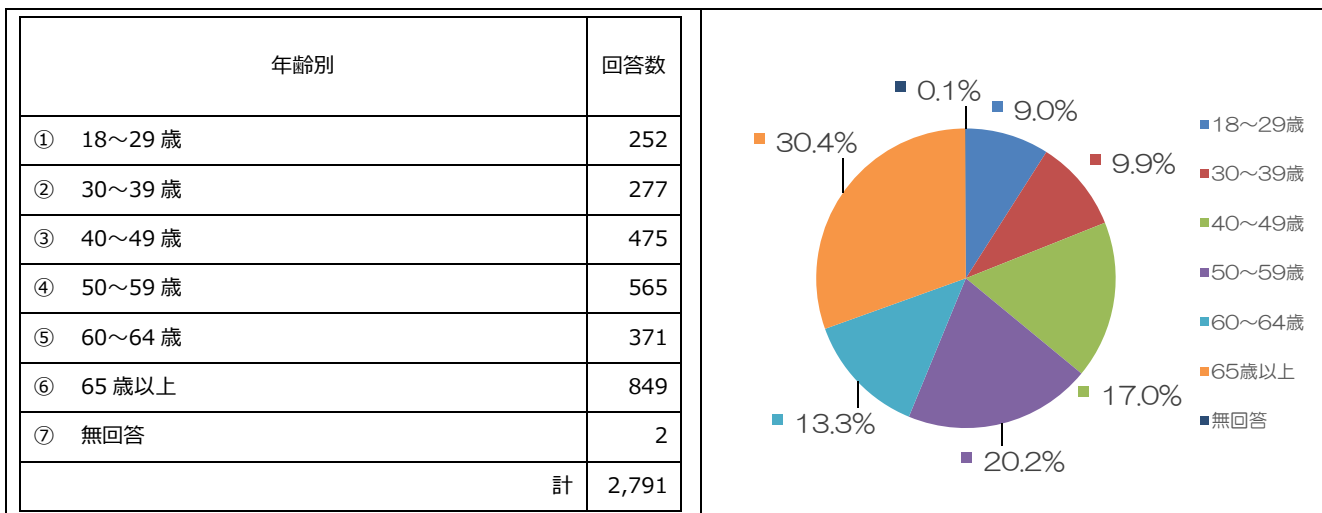
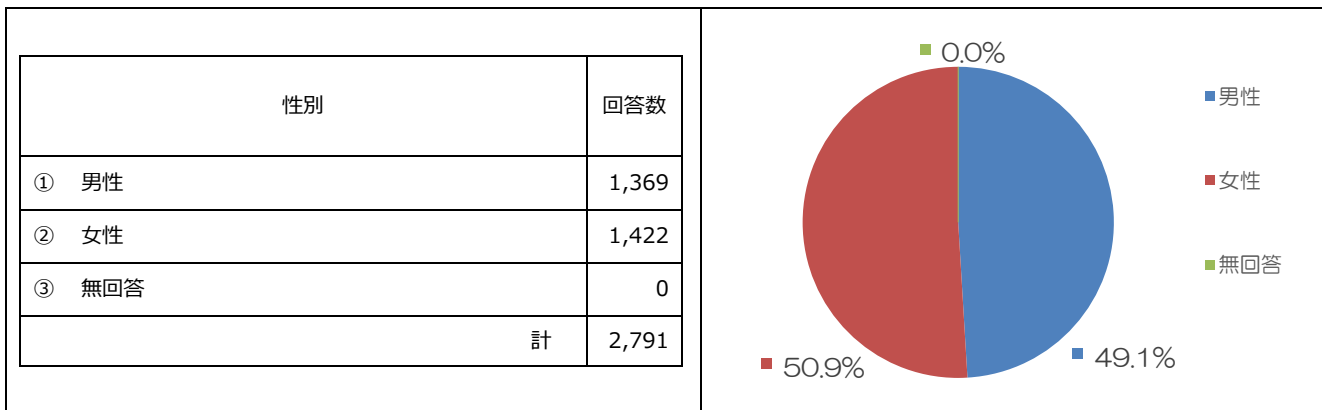
<性別毎の認知度>



<年齢別の認知度>



<調査対象の属性>



※ 地域別の抽出率が異なるため、回答数 1,534 件に集計ウェイトを加重して規正し、2,791 件に補正。

◆調査対象：個人

<調査の概要>

- 1 対 象：県内居住の満 20 歳以上の男女
- 2 期 間：令和 2 年 9 月～12 月
- 3 回 答：1,549 人

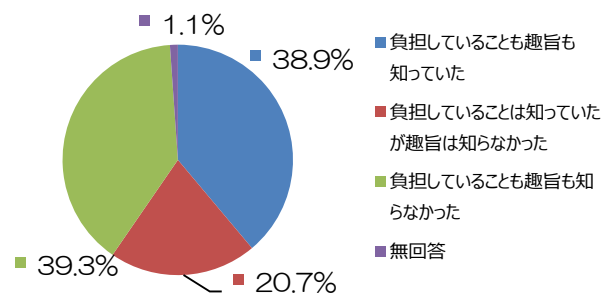
・ 各種イベント開催時や窓口等において、任意によるアンケート調査を実施。

<実施箇所>

- ・ むらやま地域森の感謝祭
 - ・ 遊学の森、源流の森、眺海の森
 - ・ やまがたの森づくり発表会
 - ・ 木工体験会、森のホームステイ体験
 - ・ やまがた緑環境税取組みパネル展示会場
(川西町フレンドリープラザ、最上広域交流センターゆめりあ(新庄市)、町民総合センターあ～ず(飯豊町)、鶴岡市温海ふれあいセンター、イオンモール三川(三川町)、若あゆ温泉(舟形町)、イオンモール山形南(山形市))
 - ・ 市町村窓口 (山形市、寒河江市、上市市、村山市、天童市、東根市、山辺町、中山町、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町、新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村、米沢市、長井市、高畠町、川西町、白鷹町、飯豊町、鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町)
 - ・ インターネット
- ほか

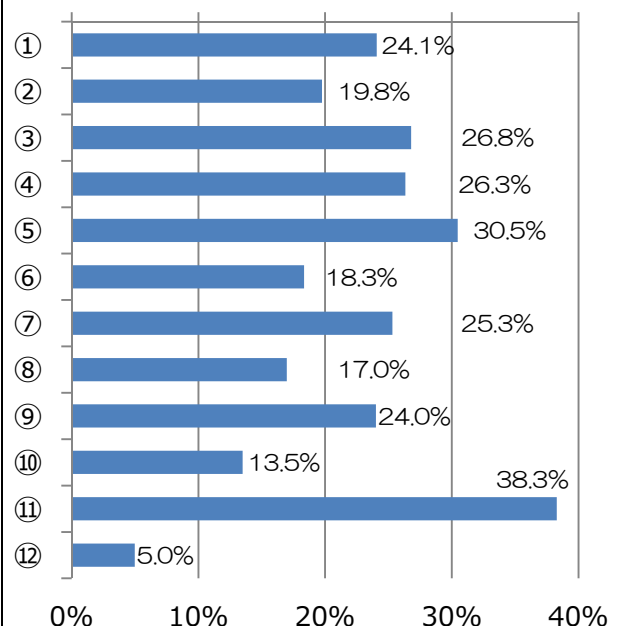
問 1 あなたは「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていますか。(1つ選択)

認知度	回答数
① 負担していることも趣旨も知っていた	602
② 負担していることは知っていたが趣旨は知らなかった	321
③ 負担していることも趣旨も知らなかった	609
④ 無回答	17
計	1,549



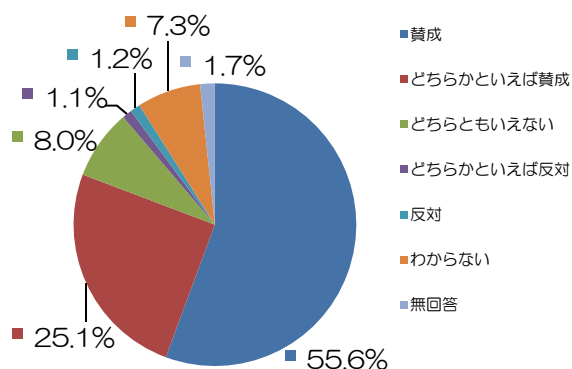
問 2 やまがた緑環境税は次の事業に活用されていますが、知っていますか。(知っているもの全て選択)

事業の認知度	回答数
① スギ人工林に広葉樹を導入し、水資源の保全など公益機能の高い森林を育成	373
② 再造林や間伐などの施策を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築	306
③ 被害木の伐採などにより、病害虫等で荒れた里山林を再生	415
④ 未利用木材を、木質バイオマス燃料などとして有効利用する取組み	408
⑤ 森づくり体験や自然観察会などの体験型イベントの開催による、森や自然環境との触れ合いの機会の拡大	472
⑥ 身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取組み	284
⑦ 森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進	392
⑧ 企業が、県や森林所有者と協働で森づくり活動を行う「やまがた絆の森」の推進	263
⑨ 森づくりに対する県民の理解を深めるため、小学生等を対象とした森林を学び森林に親しむための講座などの開催	372
⑩ クマなどの野生動物や希少な動植物、山の実のりなど、森林内の生き物に関する調査	209
⑪ わからない	593
⑫ 無回答	77



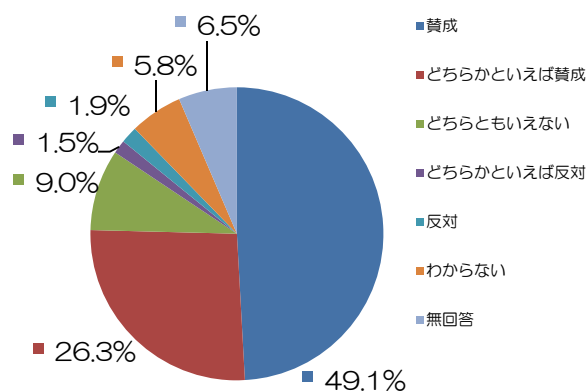
問3 あなたは、これまでやまがた緑環境税を活用して進めてきた取組みについてどう思いますか。
(1つ選択)

使いみち	回答数
① 賛成	862
② どちらかといえば賛成	389
③ どちらともいえない	124
④ どちらかといえば反対	17
⑤ 反対	18
⑥ わからない	113
⑦ 無回答	26
計	1,549



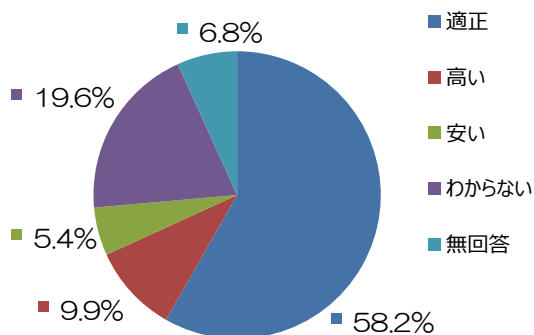
問4 今後も引き続きやまがた緑環境税を継続することについて、あなたはどのように考えますか。
(1つ選択)

継続	回答数
① 賛成	761
② どちらかといえば賛成	407
③ どちらともいえない	139
④ どちらかといえば反対	23
⑤ 反対	29
⑥ わからない	90
⑦ 無回答	100
計	1,549



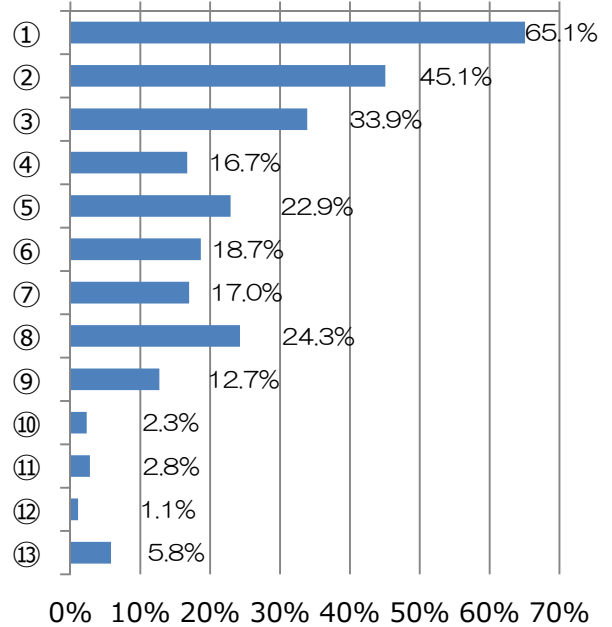
問5 やまがた緑環境税の税額について、あなたはどのように考えますか。(1つ選択)

税額	回答数
① 適正	902
② 高い	154
③ 安い	84
④ わからない	304
⑤ 無回答	105
計	1,549



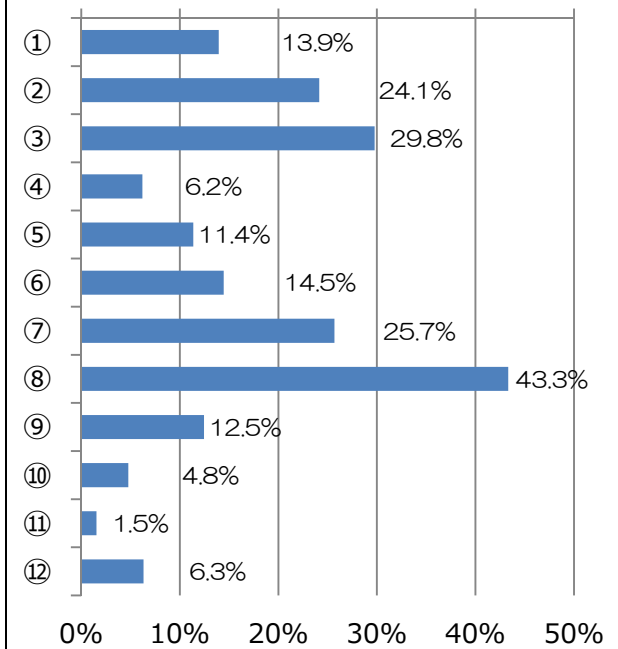
問6 あなたは、今後、森林のどのような働きに期待しますか（3つまで選択）

森林の働き		回答数
①	山崩れや洪水などの災害を防止する働き	1008
②	地球温暖化防止に貢献する働き	698
③	水資源を蓄える働き	525
④	空気をきれいにしたり、騒音をやわらげる働き	259
⑤	心身の癒しや安らぎの場を提供する働き	355
⑥	住宅用建材や家具、紙、バイオマスエネルギーなどの原材料となる木材を生産する働き	289
⑦	貴重な野生動植物の生息の場としての働き	263
⑧	自然に親しみ、森林と人とのかかわりを学ぶなど教育の場としての働き	376
⑨	きのこや山菜などの林産物を生産する働き	197
⑩	特になし	36
⑪	わからない	43
⑫	その他	17
⑬	無回答	90

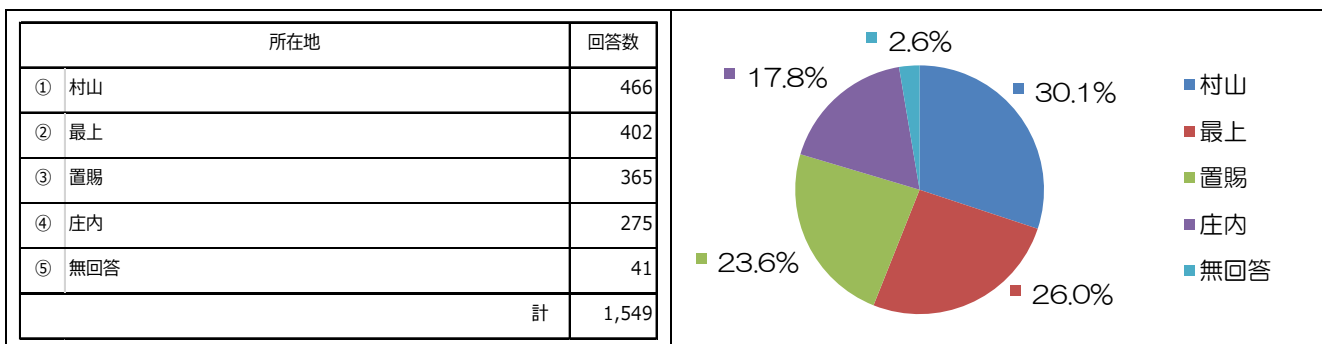
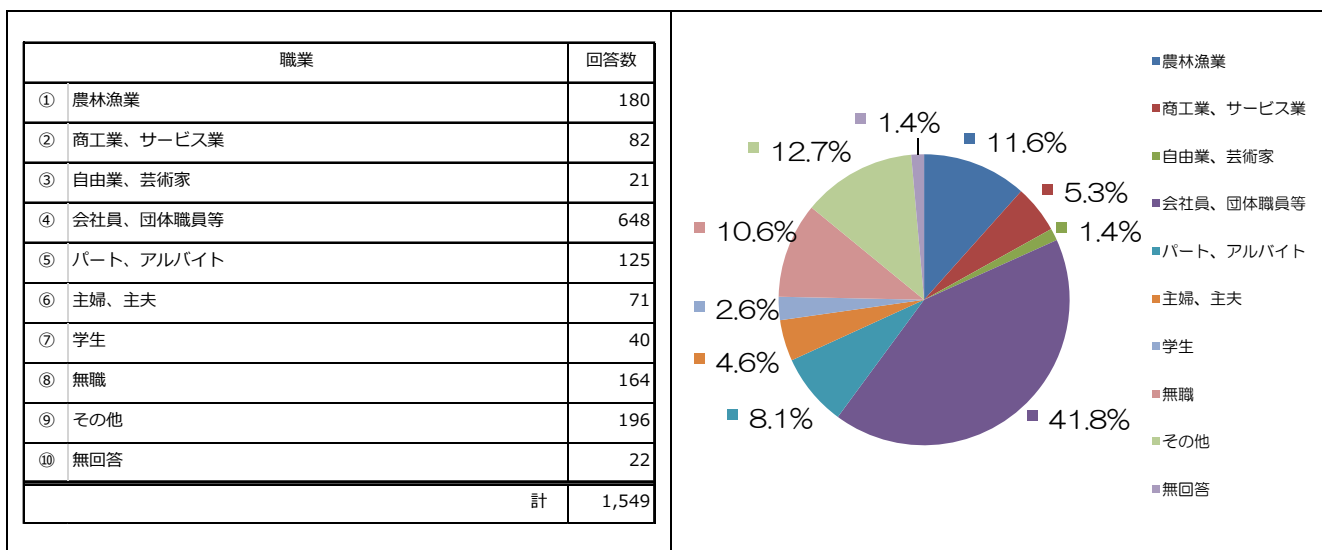
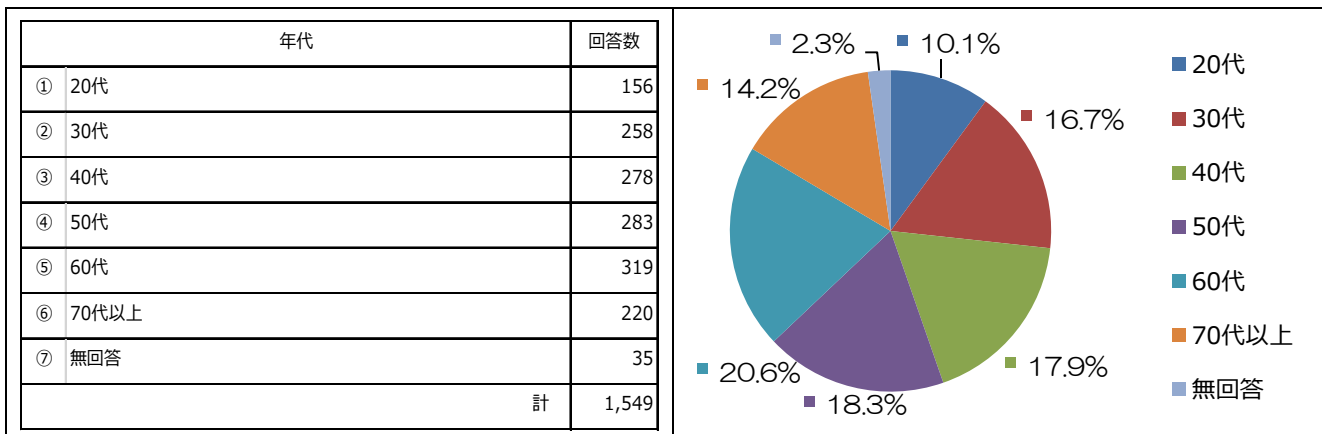
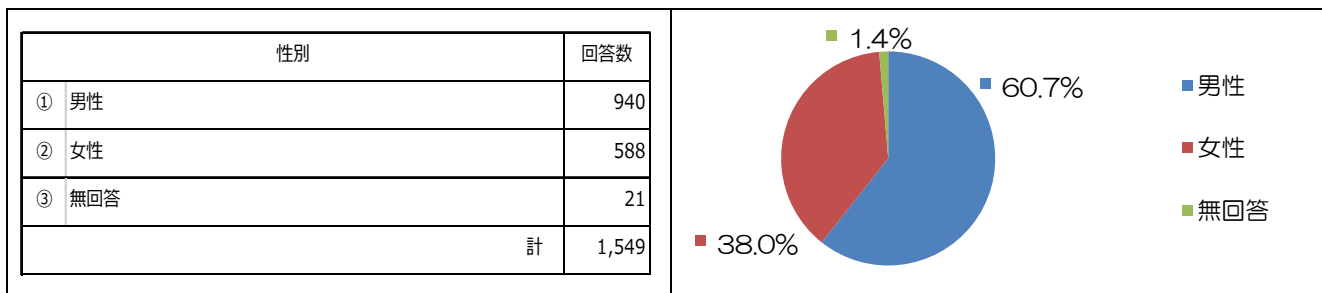


問7 あなたは、森林に関わることでどのようなことをしてみたいと思いますか。（3つまで選択）

森林との関わり		回答数
①	植林や下刈りなどの育林作業に参加したい	216
②	県民の森など身近で安心な場所で森林に親しみ、森の案内人の方々から様々な知識を学びたい	374
③	山形県産の木製品や薪を使うなど、県産木材資源の活用に協力したい	461
④	森林環境学習などについて学び、指導者として活動に協力したい	96
⑤	森林内に生息する動植物の保全活動や、生き物調査に参加したい	176
⑥	気の合う仲間とサークルを作り、自然の中で行う様々な活動に協力したい	224
⑦	山菜やきのこを育てることで、山の恵み・大切さを実感したい	398
⑧	森林浴により心身の気分転換を図りたい	671
⑨	特になし	193
⑩	わからない	74
⑪	その他	24
⑫	無回答	98



<調査対象の属性>



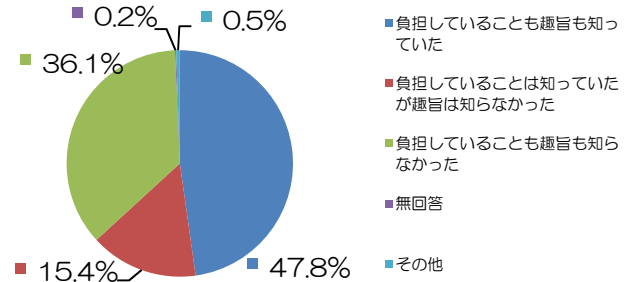
◆調査対象：法人

<調査の概要>

- 1 対象：山形県法人会連合会 会員
- 2 期間：令和2年6月～10月
- 3 回答：584社

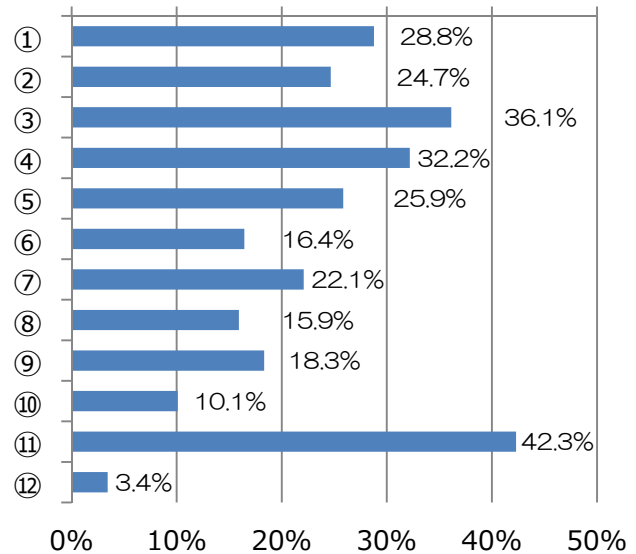
問1 貴社は「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていますか。(1つ選択)

認知度	回答数
① 負担していることも趣旨も知っていた	279
② 負担していることは知っていたが趣旨は知らなかった	90
③ 負担していることも趣旨も知らなかった	211
④ 無回答	1
⑤ その他	3
計	584



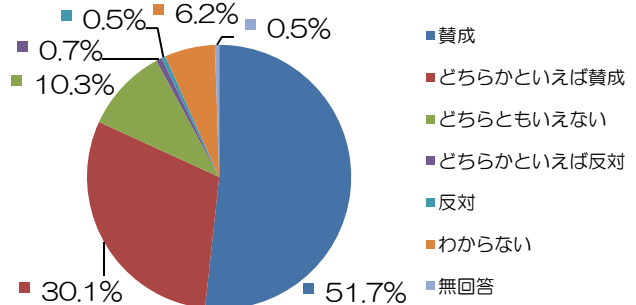
問2 やまがた緑環境税は次の事業に活用されていますが、知っていますか。(知っているもの全て選択)

事業の認知度	回答数
① スギ人工林に広葉樹を導入し、水資源の保全など公益機能の高い森林を育成	168
② 再造林や間伐などの施業を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築	144
③ 被害木の伐採などにより、病虫害等で荒れた里山林を再生	211
④ 未利用木材を、木質バイオマス燃料などとして有効利用する取組み	188
⑤ 森づくり体験や自然観察会などの体験型イベントの開催による、森や自然環境との触れ合いの機会の拡大	151
⑥ 身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取組み	96
⑦ 森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進	129
⑧ 企業が、県や森林所有者と協働で森づくり活動を行う「やまがたの森」の推進	93
⑨ 森づくりに対する県民の理解を深めるため、小学生等を対象とした森林を学び森林に親しむための講座などの開催	107
⑩ クマなどの野生動物や希少な動植物、山の奥のりなど、森林内の生き物に関する調査	59
⑪ わからない	247
⑫ 無回答	20



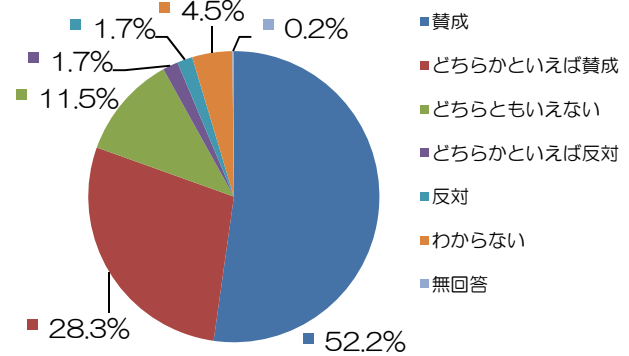
問3 貴社は、これまでやまがた緑環境税を活用して進めてきた取組みについてどう思いますか。(1つ選択)

使いみち	回答数
① 賛成	302
② どちらかといえば賛成	176
③ どちらともいえない	60
④ どちらかといえば反対	4
⑤ 反対	3
⑥ わからない	36
⑦ 無回答	3
計	584



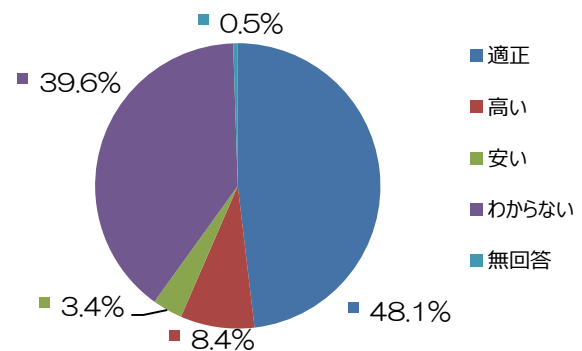
問4 今後も引き続きやまがた緑環境税を継続することについて、貴社はどのように考えますか。(1つ選択)

継続	回答数
① 賛成	305
② どちらかといえば賛成	165
③ どちらともいえない	67
④ どちらかといえば反対	10
⑤ 反対	10
⑥ わからない	26
⑦ 無回答	1
計	584



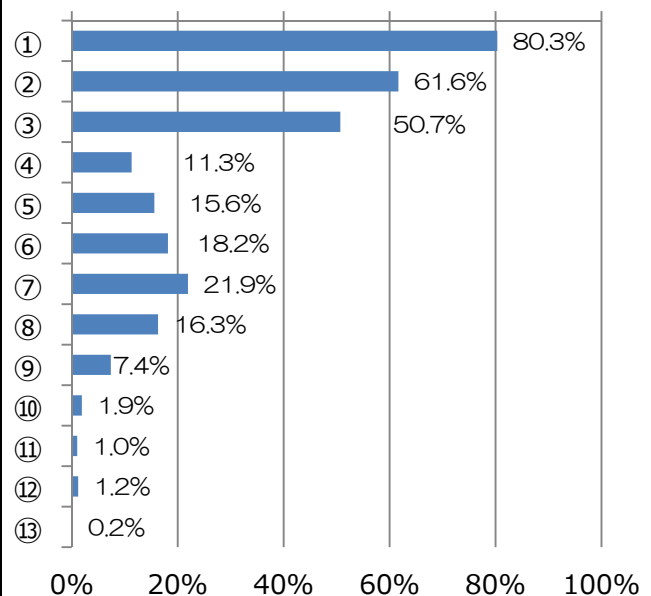
問5 やまがた緑環境税の税額について、貴社はどのように考えますか。(1つ選択)

税額	回答数
① 適正	281
② 高い	49
③ 安い	20
④ わからない	231
⑤ 無回答	3
計	584



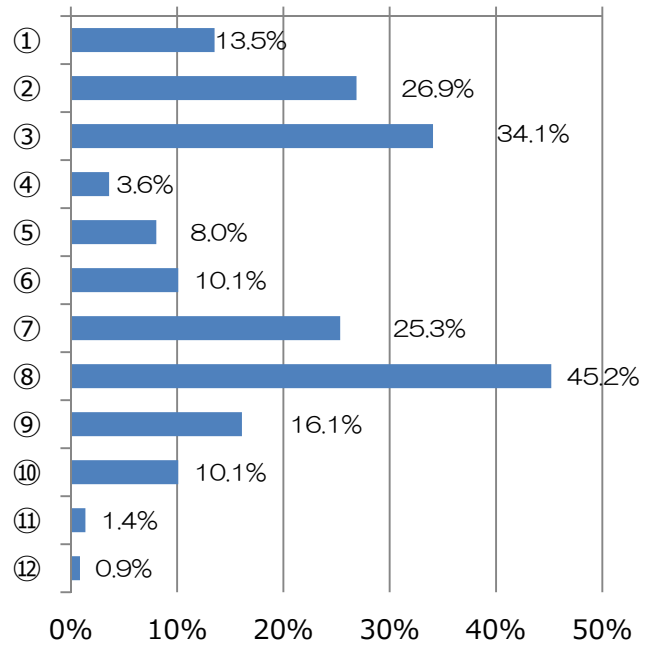
問6 貴社は、今後、森林のどのような働きに期待しますか。(3つまで選択)

森林の働き	回答数
① 山崩れや洪水などの災害を防止する働き	469
② 地球温暖化防止に貢献する働き	360
③ 水資源を蓄える働き	296
④ 空気をきれいにしたたり、騒音をやわらげる働き	66
⑤ 心身の癒しや安らぎの場を提供する働き	91
⑥ 住宅用建材や家具、紙、バイオマスエネルギーなどの原材料となる木材を生産する働き	106
⑦ 貴重な野生動物植物の生息の場としての働き	128
⑧ 自然に親しみ、森林と人とのかかわりを学ぶなど教育の場としての働き	95
⑨ きのごや山菜などの林産物を生産する働き	43
⑩ 特になし	11
⑪ わからない	6
⑫ その他	7
⑬ 無回答	1



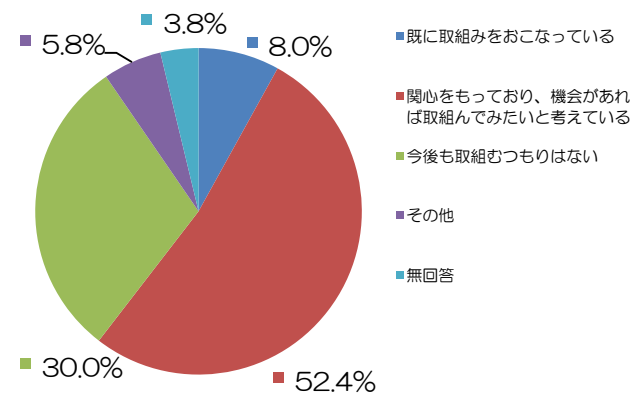
問7 あなたは、森林に関わることでどのようなことをしてみたいと思いますか。(3つまで選択)

森林との関わり	回答数
① 植林や下刈りなどの育林作業に参加したい	79
② 県民の森など身近で安心な場所で森林に親しみ、森の案内人の方々から様々な知識を学びたい	157
③ 山形県産の木製品や薪を使うなど、県産木材資源の活用に関心したい	199
④ 森林環境学習などについて学び、指導者として活動に関心したい	21
⑤ 森林内に生息する動植物の保全活動や、生き物調査に参加したい	47
⑥ 気の合う仲間とサークルを作り、自然の中で行う様々な活動に関心したい	59
⑦ 山菜やきのこを育てることで、山の恵み・大切さを実感したい	148
⑧ 森林浴により心身の気分転換を図りたい	264
⑨ 特になし	94
⑩ わからない	59
⑪ その他	8
⑫ 無回答	5



問8 貴社は、森林を活用した社会貢献活動（CSR）を行ってみたいと思いますか。(1つ選択)

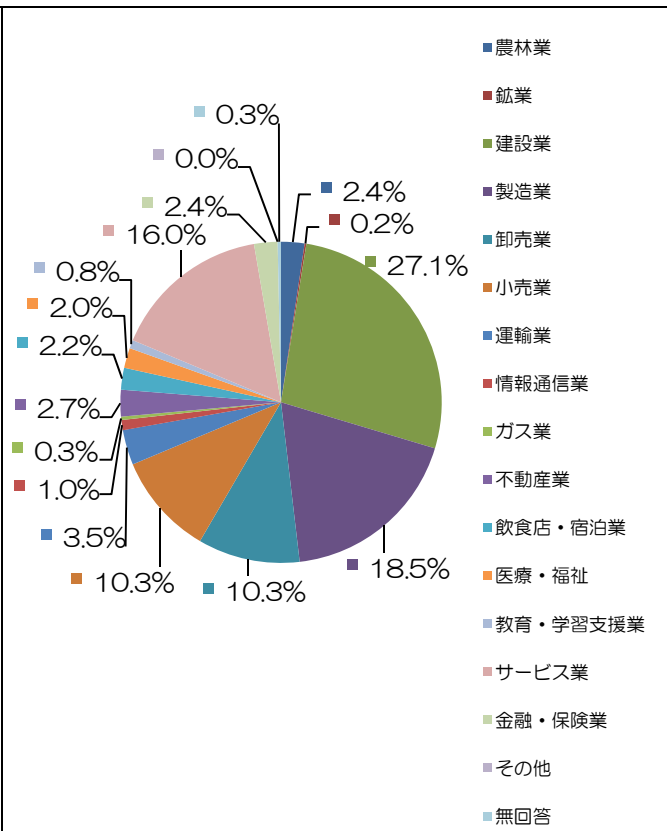
社会貢献活動	回答数
① 既に取組みをおこなっている	47
② 関心をもっており、機会があれば取組んでみたいと考えている	306
③ 今後も取組むつもりはない	175
④ その他	34
⑤ 無回答	22
計	584



<回答した法人の内訳>

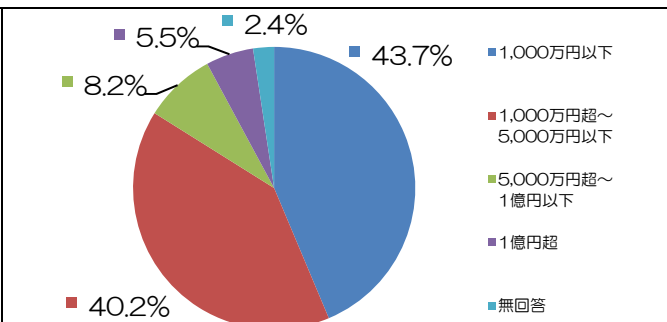
業種

回答法人の業種	回答数
① 農林業	14
② 鉱業	1
③ 建設業	161
④ 製造業	110
⑤ 卸売業	61
⑥ 小売業	61
⑦ 運輸業	21
⑧ 情報通信業	6
⑨ ガス業	2
⑩ 不動産業	16
⑪ 飲食店・宿泊業	13
⑫ 医療・福祉	12
⑬ 教育・学習支援業	5
⑭ サービス業	95
⑮ 金融・保険業	14
⑯ その他	0
⑰ 無回答	2



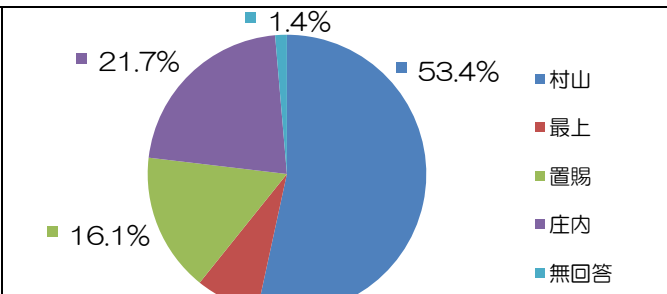
資本金

回答法人の資本金	回答数
① 1,000万円以下	255
② 1,000万円超～5,000万円以下	235
③ 5,000万円超～1億円以下	48
④ 1億円超	32
⑤ 無回答	14



所在地

回答法人の所在地	回答数
① 村山	312
② 最上	43
③ 置賜	94
④ 庄内	127
⑤ 無回答	8



◆調査対象：森林所有者

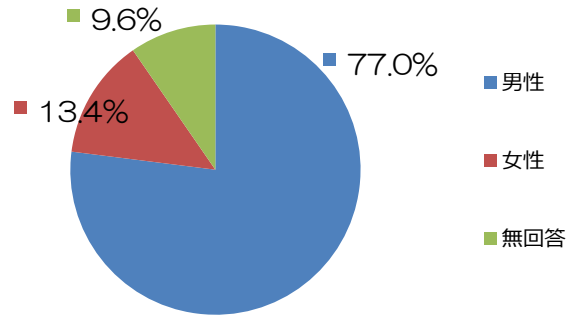
<調査の概要>

- 1 対象：やまがた緑環境税を活用して森林整備を実施した森林所有者
- 2 期間：令和2年9月～10月
- 3 回答：426名

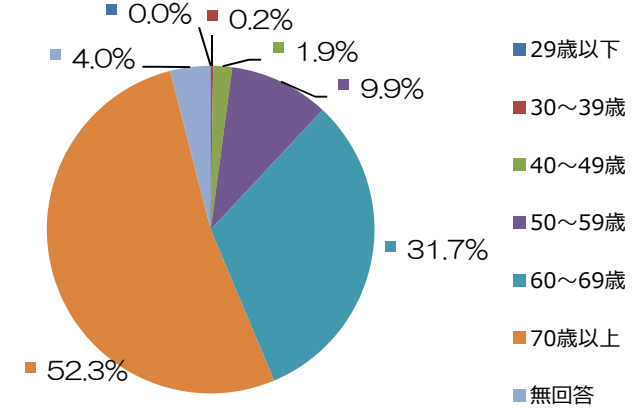
・ 郵送によるアンケート調査を実施

問1 御自身についてお伺いします。(性別と年齢)

性別	回答数
① 男性	328
② 女性	57
③ 無回答	41
計	426

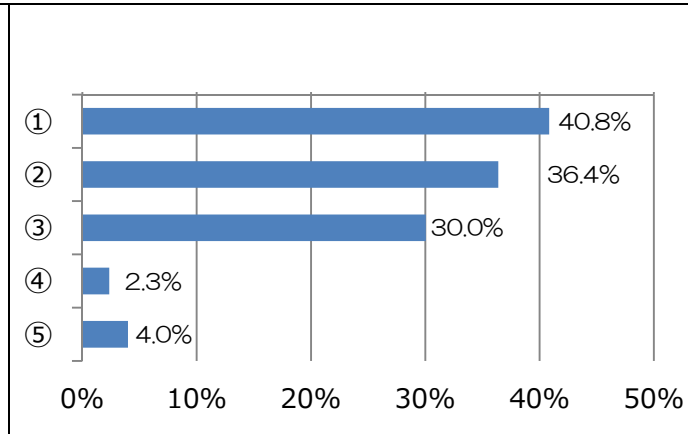


年齢	回答数
① 29歳以下	0
② 30～39歳	1
③ 40～49歳	8
④ 50～59歳	42
⑤ 60～69歳	135
⑥ 70歳以上	223
⑦ 無回答	17
計	426



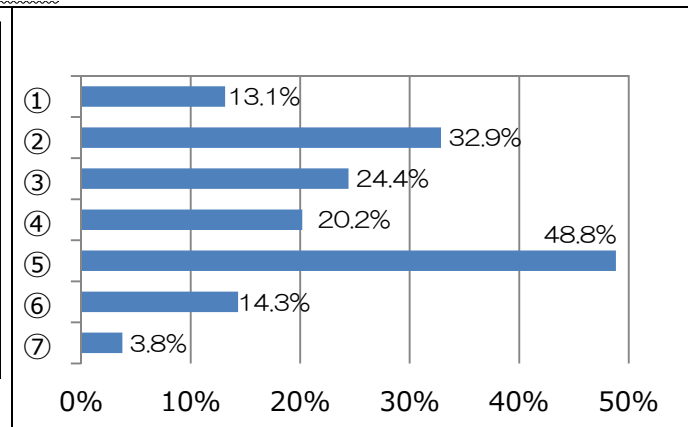
問2 このたびやまがた緑環境税を活用した森林の手入れに同意していただいた理由をお答えください。(複数回答可)

事業を行っての感想	回答数
① 自己負担がなかった	174
② 手入れの必要性を感じた	155
③ 森林組合から勧められた	128
④ その他	10
⑤ 無回答	17



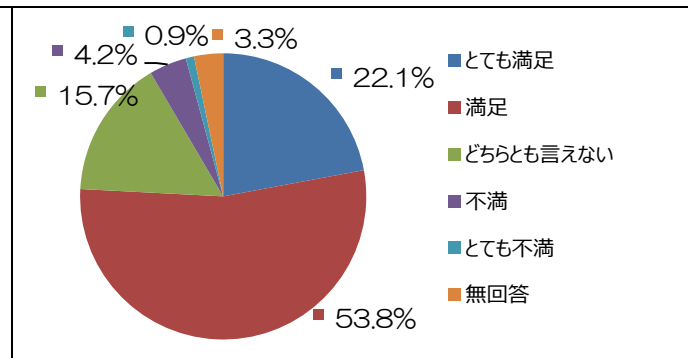
問3 やまがた緑環境税により森林が手入れされる以前に、御自身で森林の手入れを行わなかった(できなかった)理由をお答えください。(複数回答可)

手入れができなかった理由	回答数
① 森林に関心がない	56
② 森林にお金をかけたくない	140
③ 自分が所有している森林の所在地がわからない	104
④ 手入れの方法(誰に相談したら良いのか)がわからない	86
⑤ 森林の手入れを行う体力がない	208
⑥ その他	61
⑦ 無回答	16



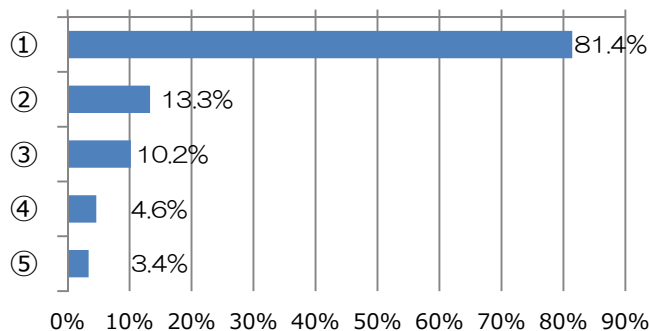
問4-1 やまがた緑環境税により手入れが行われた森林について、どう思いますか。

事業を行っての感想	回答数
① とても満足	94
② 満足	229
③ どちらとも言えない	67
④ 不満	18
⑤ とても不満	4
⑥ 無回答	14
計	426



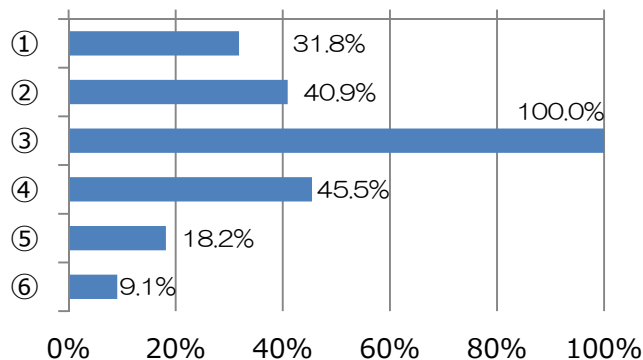
問4-2 問4-1で1または2とお答えになった方にお伺いします。どの点に満足されましたか。(複数回答可)

事業を行っての感想		回答数
①	森林がきれいになった	263
②	土地の境界(森林の所有界)が明確になった	43
③	森林に行く道が出来た	33
④	その他	15
⑤	無回答	11



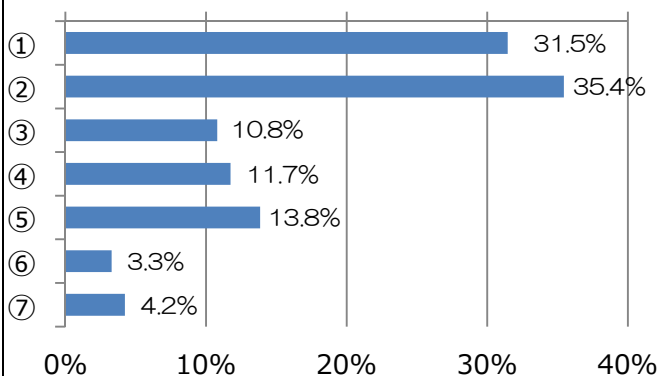
問4-3 問4-1で4または5とお答えになった方にお伺いします。どの点に不満を感じられましたか。(複数回答可)

事業を行っての感想		回答数
①	思った以上に木を伐られた	7
②	もっと木を伐って欲しかった	9
③	伐った木が森林に放置されたままであった	22
④	自分の森林に道を通してもらいたかった	10
⑤	自分の森林に道を通してもらいたくなかった	4
⑥	その他	2



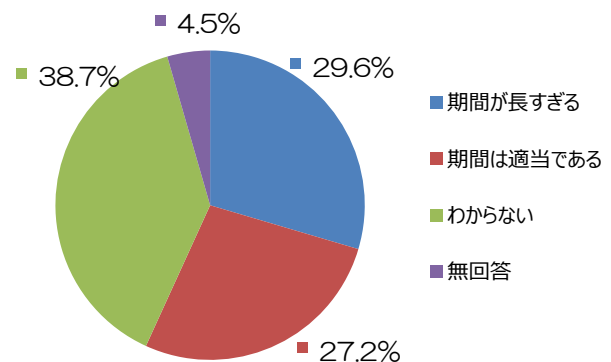
問5 やまがた緑環境税による森林の手入れを行う際に皆様と結ぶ協定書においては、森林の皆伐(全て伐ること)を禁止するなど、協定期間(20年間)中は森林の持続的な管理が行われるようお願いをしています。あなたが所有する森林について、今後の管理をどのようにお考えですか。(複数回答可)

今後の管理について		回答数
①	森林を管理できる自信がない	134
②	森林の管理ができるかわからないが、所有は続けたい	151
③	全て伐りたい(又は売り払いたい)	46
④	金銭的な助成があれば、手入れを考えてみたい	50
⑤	森林の取扱い等について森林組合と相談をしてみたい	59
⑥	その他	14
⑦	無回答	18



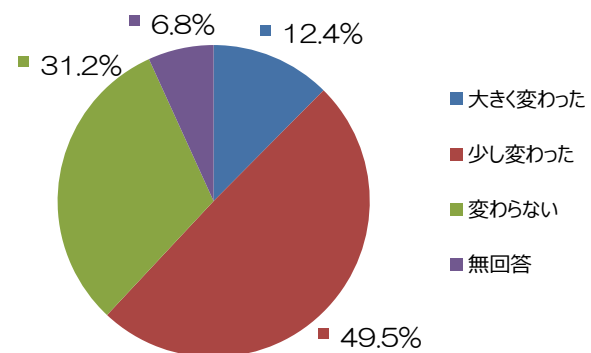
問5-2 協定期間（20年間）についてどう思いますか。

今後の管理について		回答数
①	期間が長すぎる	126
②	期間は適当である	116
③	わからない	165
④	無回答	19
計		426



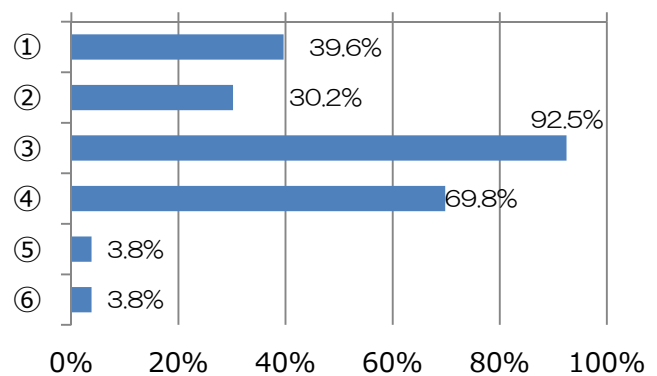
問6-1 やまがた緑環境税による森林の手入れが行われた後で、森林についての見方に変化はありましたか。

森林の見方の変化		回答数
①	大きく変わった	53
②	少し変わった	211
③	変わらない	133
④	無回答	29
計		426



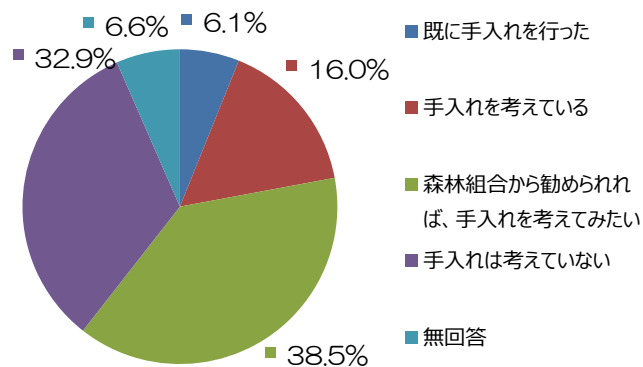
問6-2 問6-1で1とお答えになった方にお伺いします。森林についての見方はどのように変化しましたか。（複数回答可）

森林の見方の変化		回答数
①	森林を保有していることを意識するようになった	21
②	周辺の森林も見erようになった	16
③	森林の手入れも必要だと感じるようになった	49
④	金銭的な助成があれば、手入れ（森林組合等への委託を含む）を試みたいと思った	37
⑤	その他	2
⑥	無回答	2



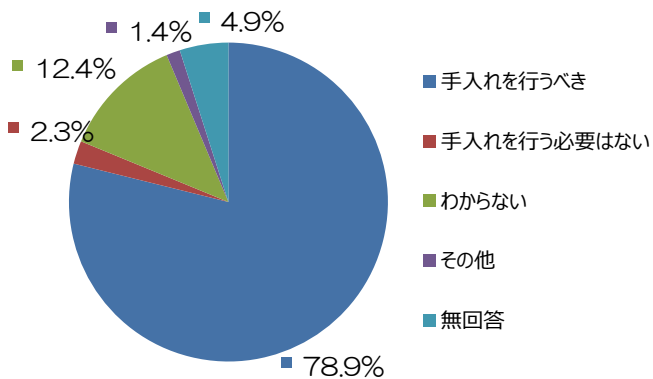
問7 今後、御自身（森林組合等への委託を含む）で森林の手入れを行いますか。

今後の森林の手入れ	回答数
① 既に手入れを行った	26
② 手入れを考えている	68
③ 森林組合から勧められれば、手入れを考えてみたい	164
④ 手入れは考えていない	140
⑤ 無回答	28
計	426



問8 森林の手入れ不足を解消する方法の一つとして、今後も県がやまがた緑環境税を活用して手入れを行うべきと思いますか。

緑環境税を活用した森林の手入れの継続	回答数
① 手入れを行うべき	336
② 手入れを行う必要はない	10
③ わからない	53
④ その他	6
⑤ 無回答	21
計	426



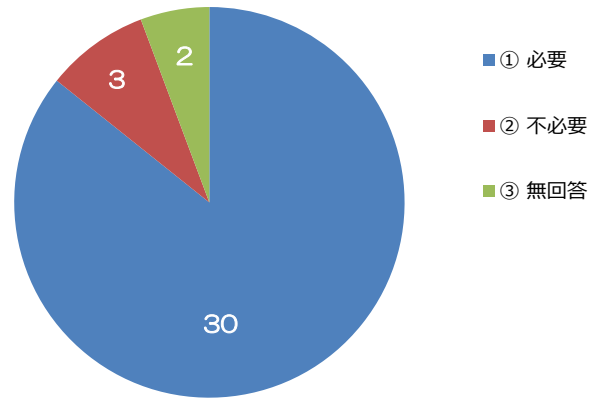
◆調査対象：市町村聞き取り調査

<調査の概要>

- 1 対象：県内各市町村
- 2 期間：令和2年8月17日～9月4日
- 3 回答：35

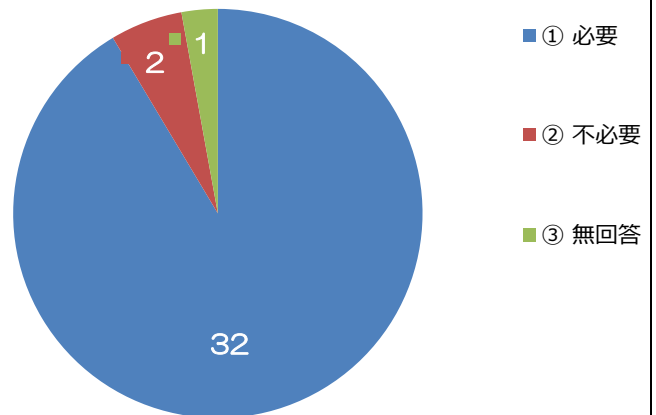
問1 「やまがた緑環境税」ハード事業継続の必要性

必要性	回答数
① 必要	30
② 不必要	3
③ 無回答	2
計	35



問2 「やまがた緑環境税」ソフト事業継続の必要性

必要性	回答数
① 必要	32
② 不必要	2
③ 無回答	1



資料5 県民参加の森づくり活動等参加者数一覧

区分名		H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 実績	
県計	やまがた緑環境税活用事業	NPO・住民団体等実施事業	6,546	14,564	16,491	17,431	18,223	19,150	21,965
		市町村実施事業	9,277	11,475	13,148	17,525	16,986	17,851	20,638
		やまがた絆の森等（企業）						3,574	3,626
		森づくりサポート体制推進事業				290	312	220	262
		自然環境保全対策活動	170	17	180	251	88	46	98
		やまがた木育・森林環境教育関係	656	1,615	1,709	1,846	1,726	5,070	4,300
		普及啓発事業等	2,688	2,994	4,006	5,181	5,239	4,237	4,655
		木の香るやまがたの街づくり事業	1,008	595					
		やまがた緑環境税分 計	20,345	31,260	35,534	42,234	42,574	50,148	55,544
		既存事業等	ボランティアによる森づくり活動・研修会等	5,352	2,202	3,749	1,653	1,240	1,056
	小中高の森林学習森林環境教育		5,419	5,651	4,366	4,657	4,324	2,207	2,689
	緑の少年団活動		1,262	1,577	2,102	1,335	1,569	1,315	671
	「県民の森」の体験プログラム等		29,842	27,160	26,937	28,860	32,387	28,481	28,659
	既存事業等 計		41,875	36,590	37,154	36,505	39,520	33,059	33,642
	合 計		62,220	67,850	72,688	78,739	82,094	83,207	89,186

区分名		H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R1 実績	R2 実績	
県計	やまがた緑環境税活用事業	NPO・住民団体等実施事業	24,532	25,677	27,298	22,447	19,976	15,594	11,439
		市町村実施事業	19,069	20,474	19,315	23,035	23,048	29,250	18,428
		やまがた絆の森等（企業）	3,084	3,477	3,132	3,514	4,639	2,774	606
		森づくりサポート体制推進事業				290	312	220	262
		自然環境保全対策活動	101	156	288	297	279	274	238
		やまがた木育・森林環境教育関係	3,678	4,343	4,348	3,921	5,175	5,737	372
		普及啓発事業等	7,024	6,852	8,294	11,889	11,731	13,009	4,050
		木の香るやまがたの街づくり事業							
		やまがた緑環境税分 計	57,488	60,979	62,675	65,393	65,160	66,858	35,395
		既存事業等	ボランティアによる森づくり活動・研修会等	1,976	2,137	2,702	1,842	1,573	922
	小中高の森林環境教育		2,976	2,734	2,188	3,061	4,298	5,224	1,623
	緑の少年団活動		1,478	1,457	1,487	1,194	1,783	1,450	423
	「県民の森」の体験プログラム等		30,626	31,311	31,621	31,277	29,797	31,225	7,002
	既存事業等 計		37,056	37,639	37,998	37,374	37,451	38,821	9,626
	合 計		94,544	98,618	100,673	102,767	102,611	105,679	45,021